

大／阪／の／建／築／まちあるき——「みしま野」

ひりゅうざんめいおうじ
飛龍山冥應寺



境内



正面から望む本殿



本殿屋根の上に建つモニュメント



高く聳える水子供養塔

所在地： 茨木市西穂積町 7-41
最寄駅： JR 茨木駅下車 北西へ徒歩約 30 分
若しくは近鉄バス「茨木弁天前」行き
約 10 分乗車・停留所前すぐ
見学： 自由です。但し大勢で見学される場
合は宗務庁へお声掛けを。
問合せ： 辯天宗宗務庁
TEL： 072-622-6861

7月後半から8月にかけて大阪府内でも大規模な花火大会が開催される。毎年8月8日には雨が降らない限り、冥應寺において勢いよく花火が打ち上げられ、茨木の夜空を色彩豊に染め上げ、花火の打ち上がる音が「みしま野」の隅々まで木魂する。

冥應寺は、通称「茨木の弁天さん」で親しまれている。大辯才天女尊を本尊とした新しい宗教「辯天宗」は昭和29年(1954年)に奈良県五条市野原に総本山如意寺を創建し、その後第二の聖地として此処「茨木の弁天さん」が昭和30年(1955年)に産声を上げることになる。当初境内には桔梗殿という建物が建造され、それに引き続く約10年間、延べ46万人の人々が奉仕して、山をならして土を運んで現在の形にしたとされている。境内に植えられた八重桜や枝垂桜は人々に春の到来を告げ、花火大会が夏の清涼感を与えるなど、一年を通じて参拝者の絶え間が無い。境内には本殿の他に、一際高く聳える水子供養塔や銀色に渋く輝いた球体の万国戦争受難者慰霊塔などがある。

本殿は昭和39年に落慶した比較的新しい建物である。本殿は鉄筋コンクリート造平屋建て。屋根は銅板葺きで、ライズの低い欠円アーチで構成されたヴォールトが十字形に交差し、屋根の上には塔を模したアーチ状のモニュメントを冠している。本殿の外観は、現在に於いても宗教施設として考えるならば斬新な意匠である。一転、内部は現代風な意匠が見え隠れする中にも、朱塗の柱や欄干、黒塗の格天井、金箔押しに彩色豊かな装飾文様が描かれるなど、本邦古来の装飾技法が多用されており、新しい意匠の中にも古式豊かな意匠が融合した空間を形成している。参拝者にとって、外部空間は気軽に訪れることができる意匠となっているが、内部空間は此処が宗教施設である事を想起させ、一種の緊張感を齎す工夫をしている。

(神保 勲)